

皆さん、おはようございます。例年より短く、そして猛暑が続いた夏休みですが、特に大きな事故の報告もなく2学期の始業が迎えられたことを嬉しく思います。

2学期は文化祭や体育祭も中止にせざるを得なくなり、楽しみが減ってしまいましたが、そんな中でも目標を見失わず、皆さん一人一人が飛躍する学期となるよう願っています。

飛躍するためのヒントとして、今日は中高生の作文甲子園で審査員特別賞を受賞した中学生の作品を紹介したいと思います。

タイトルは「アイスクリーム、食べにいかがか」です。

「よっしゃー、優勝」

サッカーの大きな大会で僕のチームは県大会で1位になった。念願の九州大会だ。飛行機や宿泊先の事を考えると、興奮したものだ。

しかし、その夢はある日、一気に崩されることになった。

九州大会派遣のメンバー発表の時、県大会ではずっとメンバー入りだった僕が外された。名前を呼ばれなかった。

間違えていると思って聞き返したが、僕の名前は最後まで呼ばれることはなかった。予想だにしてなくて、不意打ちで起きた地獄だった。

練習が終わり、母が迎えに来てくれた。車に乗った瞬間、涙が流れてきた。

「メンバーに選ばれなかった。」

母にそう伝えると、いつもはしつこいくらいに質問攻めの母が何も聞かなかった。

「アイスクリーム、食べにいかがか」

夕食前にデザートを禁止にしている母がアイスクリームに誘ったのだ。僕は席につくなり、ずっとうつむいていた。アイスクリームを食べた母が、

「おいしいね」と、言った。僕は

「こんな時に何だよ」と思い、顔を上げ、母を見ると、今にもこぼれそうなくらい目に涙をためている母がいた。しばらく沈黙が続いて母は話し始めた。

「どんなに頑張っても、思い通りにならないことってあるんだよ。でもね、何度くじけても何度でも頑張れる力が、とっても大切。そういう人間になって欲しいな」と。僕は、

「うん」

とだけ答え、残っているアイスクリームを口いっぱい頬張り、食べた。

自分の事のように涙を流す母に感謝した。そして、母の偉大さを感じた。

僕はこの経験を胸に、努力し続ける人になると強く思った。

という作文です。2学期の始業に当たり、この偉大なお母さんの言葉を、少しアレンジして、私から生徒の皆さんに送ります。

「高校生活はもちろん、これからの長い人生で思い通りにならないことは幾度となくあると思う。でも、何度挫折しても、その度に自分の力で立ち上がれることが、とっても大切。この2学期、皆さんにはそういう力をさらに伸ばして欲しいな。」

以上、2学期始業の挨拶とします。